

# 新型インフルエンザの流行について

## 1 新型インフルエンザウイルスとは？

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスが体の中で増えて、熱やのどの痛みなどの症状を引き起こす病気です。昨年4月にメキシコ、米国及びカナダにおいて発生したインフルエンザは、その原因がブタ由来インフルエンザウイルス A/H1N1 と確認されました。これまでには一度も流行したことがない新しいウイルスで、誰もが抵抗する力をもたないと考えられています。

## 2 症状は？

今回の新型インフルエンザの症状は、毎年流行している季節性インフルエンザとほぼ同じで、突然の発熱や咳（せき）、のどの痛み、倦怠感（だるさ）などがあり、鼻みず、鼻づまりや頭痛などもみられます。吐き気や下痢といった胃腸の症状を訴える方も一部におられ、この症状は今回の新型インフルエンザと季節性インフルエンザの相違点だと考えられています。

多くの方は、かかっても数日間で回復します。ただし、一部の方で重症化することがあるので注意が必要です。とくに、糖尿病やぜん息などの持病がある方や妊婦、幼児や高齢者は、重症化する可能性が比較的高いです。



## 3 新型インフルエンザの検査は？

(ウイルスの遺伝子を増やして検査。季節性と区別できる。)

症状があった人ののどや鼻の中を綿棒でぬぐった液から、インフルエンザウイルスの遺伝子を抽出して検査を行います。抽出したウイルス遺伝子はごく微量なので、検査には、遺伝子の特定部位を増やして調べる方法（遺伝子検査）を利用します。新型インフルエンザウイルス、季節性インフルエンザウイルス（Aソ連型、A香港型）など、ウイルスの型により増やす遺伝子の部位が異なるので、どの部位が増えたかを調べると、患者さんがかかったインフルエンザウイルスの型がわかるのです。

当研究所では、この方法を用いて検査結果が早く分かるようにしました。

## 4 当研究所の検査状況

### (1) 検査の概要

平成21年5月5日から検査を開始しました。開始当初は患者全員の検査を実施していましたが、患者数の増加に伴い、8月は集団発生中心の検査を、9月からは入院患者中心の検査を実施しました。

平成22年3月末までの遺伝子検査数は479件で、そのうち新型インフルエンザ371件、A香港型14件が陽性でした。

### (2) 遺伝子検査陽性例の年齢分布

当研究所で検査し、遺伝子検査陽性であった371名のうち、年齢がわかっている364名の年齢分布を示しました(図1)。10歳未満が53%と約半数を占め、10代が27%、20代が9%と、若年層が多くを占めていました。



## 5 現在も監視継続中です。

今回の新型インフルエンザウイルスは多くの人に感染し、流行しましたが、日本での死亡率は、人口10万人当たり0.15人と極めて低く、比較的病原性の弱いウイルスであったといわれています。今は、新型インフルエンザの流行は沈静化していますが、今後、冬までの間には、患者が増加する可能性も指摘されています。将来、再び、新たな「新型インフルエンザ」が出現する可能性もあります。ウイルスサーベイランス等により発生動向を監視しながら、抗ウイルス薬耐性株の出現や変異するウイルスに対応できるよう検査に取り組んでいます。

## おわりに

インフルエンザウイルスに感染しないためには、手洗い・うがいをしっかりとすることが大切です。

手洗いは、帰宅時だけではなく、可能な限り、頻回に行いましょう。また、インフルエンザウイルスは粘膜を通して感染するため、できるだけ、鼻や口などを触らないようにしましょう。咳、くしゃみの際の「咳エチケット」も感染防止のために心がけましょう。

### <用語説明>

【ウイルスサーベイランス】感染の原因となったウイルスの種類やその数を調べ、状況を監視するシステムのことです。

【抗ウイルス薬】インフルエンザウイルスの増殖を特異的に阻害することによって、インフルエンザの症状を軽減する薬剤です。タミフルなどがあります。

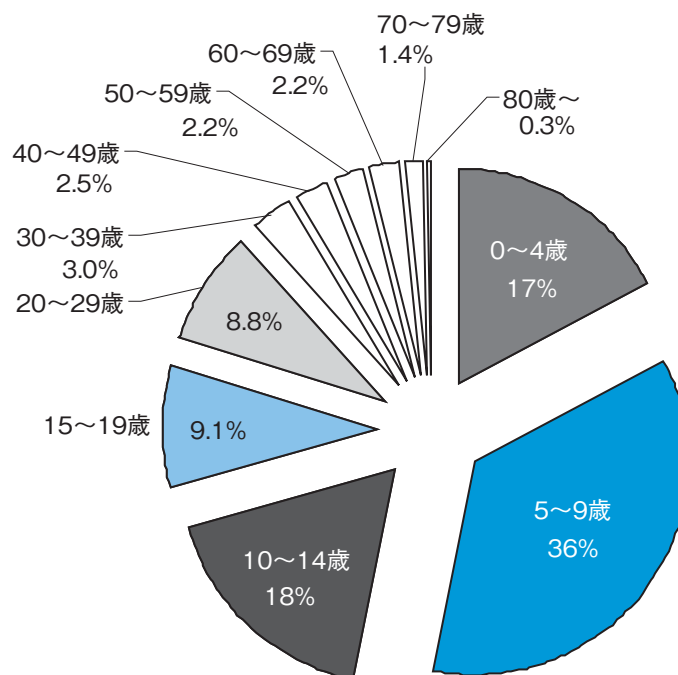


図1 遺伝子検査陽性例の年齢分布